

マレーシア日本国際工科院 (MJIT) 環境関係分野との連携推進

11月19日～22日、マレーシア工科大学(UTM)に開設されたマレーシア日本国際工科院(MJIT)を持続環境学専攻の甲斐田直子先生と訪問してきました。目的は環境関連分野の学生教育および教員の研究交流の実施と今後の取り組みについて話し合うためです。

MJITは、1982年、マハティール元首相(当時)の提唱により開始された「東方政策」の集大成として、2010年に設立構想された日本型の工学系教育を行う学術機関です。日本政府は2001年にマレーシア政府から国際工科大学設置の提案を受け、日本マレーシア首脳会談にて構想を推進することで一致し、ナジブ首相の決定により2011年9月にMJITが開校の運びとなり、2012年9月から環境関係分野(Environmental Green Technology)が開講しました。現在、日本側では支援校として24校がMJITコンソーシアム校として協力しております。昨年、京都大学名誉教授松井三郎先生のご紹介の元に、支援校幹事である芝浦工業大学(松下潤教授、橘雅彦准教授)から、筑波大学に対し、水環境修復、水処理専門で研究実績がある杉浦則夫(生命産業科学専攻教授)に話があり、生命環境系長白岩善博教授、持続環境学専攻長宮本邦明教授との話し合いの元に、生命環境系・生命環境科学研究科を母体として共同でマレーシアへの協力・支援を行うことで合意し、本学での取り組みが始まりました。

そこでMJITと筑波大学との具体的な連携協定の推進、今後の計画・展開について話し合うための今回のマレーシア訪問となりました。現地では、MJIT設置母体であるマレーシア工科大学(UTM)のザイニ副学長ほか首脳陣との会談が実現しました。水処理分野の世界的な権威者でもあるザイニ副学長からは、生命環境分野を始め、その他の分野でも今後連携して協力をお願いしたいとの依頼を受けてきました。

今回の旅では、お忙しい中、検討課題のまとめ役でもある芝浦工業大学の松下潤教授、同行頂いた橘雅彦先生、事務手続きなどを担当していただいた本学の甲斐田直子先生にも大変お世話になりました。

今後、日本とマレーシアとの連携により日本式工学教育を受けたアジア独自の優秀な人材育成の場としてさらにASEAN高等教育のハブとなりアジアをリードする高等教育機関として発展することを願って止みません。

(記事:生命産業科学専攻長 杉浦則夫教授)



写真左端から(敬称略)

Prof Dr Khairul Anuar Abdullah (UTM 社会人・修了継続教育学部長)、甲斐田直子(システム情報系助教・生命環境科学研究科担当)、橘雅彦(芝浦工業大学国際推進課客員准教授)、Prof. Datuk Ir Dr Zaini Ujang(UTM 副学長)杉浦則夫(生命環境系教授・生命環境科学研究科担当)、Dr. Tan Sri Abdul Halim Ali(UTM 執行役員会議議長) Dato' Syed Abu Hussin(UTM-Space 所長)、Prof. Dr Rose Alinda Alias(副学長補佐(学術・国際担当)) Prof Ir. Megat Johari Megat Mohd Noor(MJIT 院長)、Ms. Gurminder Kaur Sardool Singh(MJIT 博士研究員)